

水野直樹編・解説 (京都大学人文科学研究所教授)

朝鮮總督諭告

訓示集成

成督諭告

全6卷
別冊1



昭和15年頃の朝鮮總督府と職員

緑蔭書房

朝鮮總督 訓示集

韓国併合から日本敗戦、
朝鮮解放までの全時期を通して、
歴代の朝鮮總督の諭告・訓示類を
時系列に編纂した待望の資料集。
植民地支配全般(政治・経済・社会・
教育など)の研究に必備。

編者のことば

水野直樹

(京都大学人文科学研究所教授)

日本の朝鮮植民地支配に関する歴史的研究は、今日ではかなり積み重ねられつつあると言つてよい。しかし、植民地支配政策を総体的かつ具体的に解明するという課題は、いまだ充分果たされていない。特に、日本の支配当局が植民地支配政策を樹立しそれを実行するに当たつていかなる認識をもつていたのか、どのような方向に支配政策を進めようとしていたのか、など基本的な問題についての研究はまだ不足している。

今回刊行する資料集は、植民地支配の最高責任者であつた朝鮮総督がさまざまな会議で行つた訓示、朝鮮民衆に向けて発した諭告などを最大限集めたものである。これらの諭告・訓示は、公式の場での発言・文書である限りにおいて、支配の「建前」を述べたものに過ぎないと言つてもできる。しかし、総督がさまざまな場で語つた言葉は、植民地政策を研究するうえでの基礎的資料となることも確かである。

朝鮮総督府は総督の諭告や訓示を集めた文献を刊行していたが、それらをまとめて所蔵している図書館・研究機関は現在見当たらない。私自身、植民地支配の歴史を研究しながら、総督の諭告や訓示を利用するのに大いに不便を感じていた。

訓示集をまとめておけば役に立つだろうと考えて編集を始めたのが、本資料集である。編集の過程で、当時刊行された訓示集に収められていない訓示や諭告がかなりあることに気づいて、『朝鮮総督府官報』などに掲載された諭告・訓示類を探して、本資料集に収録した。また、特に警察関係の会議で総督が行つた訓示は、『朝鮮総督府官報』にも掲載されておらず、今回初めてまとまつた形で見られるように編集に意を注いだものである。

本資料集が、韓国併合から日本敗戦、朝鮮解放までの全時期を通して、また政治・経済・教育などあらゆる分野にわたつて、植民地支配の歴史を解明するのに大いに役立つものと信じている。



寺内正毅(てらうち まさたけ)
初代総督 明治43年10月就任→大正5年10月



長谷川好道(はせがわ よしみち)
二代総督 大正5年10月就任→大正8年8月



本資料集の構成

第一巻

総督諭告(『朝鮮総督府官報』官報(日本))

明治43年8月→大正元年9月

総督訓示集

明治43年8月→大正2年7月

総督諭達(『朝鮮総督府官報』)

大正3年8月

総督訓示集 第二輯

大正2年11月→大正5年4月

総督訓示集 第二輯追録

大正5年5月→6月

総督諭告・訓示(『朝鮮総督府官報』)

大正5年11月→大正8年7月

大正二年十月

總督訓示集

朝鮮總督府

第2巻

施政に関する諭告・訓示並演述

大正8年8月→大正11年3月

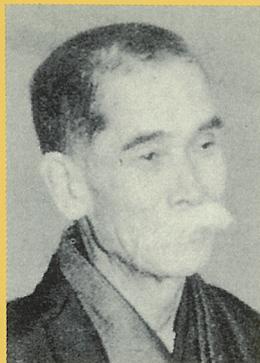
施政に関する諭告・訓示並演述 追録

大正11年4月→6月

自大正八年八月
至大正十一年三月

施政に関する諭告訓示並演述

齋藤 実(じいじ) まこと
三代総督 大正8年8月就任→昭和2年10月
五代総督 昭和4年8月就任→昭和6年6月



山梨半造(やまなし はんぞう)
四代総督 昭和2年12月就任→昭和4年8月



宇垣一成(うがき かずしげ)
六代総督 昭和6年6月就任→昭和11年8月

推薦の言葉

日本の朝鮮植民地支配研究の 深化のための貴重な史料集

中塚 明 (奈良女子大学名誉教授)

日本の朝鮮に対する植民地支配の全期間を通して、そのトップの座を占めていた朝鮮総督や政務総監の訓示・諭告・談話・挨拶などを系統的に集めたのがこの史料集である。

この種の史料は部分的に読み利用することはあっても、そのすべてを座右に置き系統的に通読することは、研究者であつてもなかなかむずかしい。

この史料集は、朝鮮総督府の既刊の書物だけでなく、官報や新聞などからも蒐集され、現在、確認できるかぎりのものが収録されている。日本の朝鮮植民地支配の研究の進化のために、まことに貴重な史料集である。

もちろん総督や政務総監の訓示などは表向きのものである。しかし眼光紙背に徹すれば、その言辞に潜む本質的なものを探り出すこともできるであろう。またまた言行一致か、不一致か、実際の施策と対応させて研究すること、さらに内向きの本音を示す史料をも博搜して表向きの言辞と対比してみることも必要であろう。

近代日本における朝鮮侵略の歴史には、まだ未知の分野がたくさんある。この史料集を手がかりにして、日本の朝鮮に対する植民地時代の研究がさらに深まることを期待したい。

第3巻

施政に関する訓示並演述

大正11年7月→昭和2年3月

秘 道警察部長会議に於ける訓示要旨集

大正8年→昭和2年

総督諭告・訓示(朝鮮総督府官報)

大正9年4月→昭和4年9月



自大正八年度
至昭和二年度

道警察部長會議に於ける訓示要旨集

朝鮮總督府警務局

第4巻

諭告・訓示・演述総攬(朝鮮行政学会)

大正11年1月→昭和15年12月

朝鮮總督府文書課編纂

諭告・訓示
演述總攬

朝鮮行政學會 發行

第5巻

時局と朝鮮統治の目標「朝鮮總督南大將閣下訓示演述集」

昭和12年7月→昭和13年4月

諭告・訓示・演述總攬 第二輯(朝鮮行政学会)

昭和15年10月→昭和18年1月

朝鮮總督府

手許に置きたい基本資料

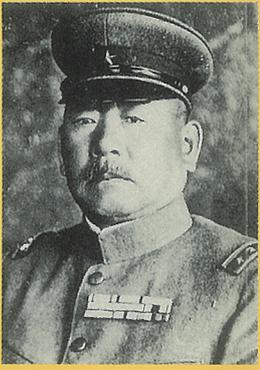
宮田節子 (早稲田大学講師)

私の机の一番手近な本棚に、この度緑蔭書房から発刊される『朝鮮総督諭告・訓示集成』に収録される『諭告・訓示・演述総攬』がある。

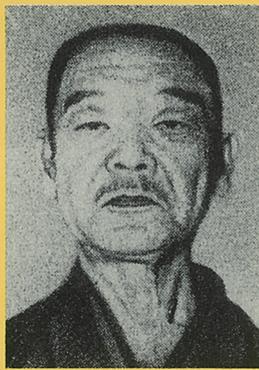
本書は朝鮮総督府官房文書課が編纂し、昭和十六年(一九四一年)に朝鮮行政学会から出版されたものである。七七六頁にのぼる本書には、いたる所に付箋がはられ、赤線が引かれ、今改めて本書を手にし、ページをめくり傍線の部分を拾い読みすると、そこを引用した論文の一節が、あざやかに思い出せる。それほど私にとっては基本的な文献である。朝鮮総督府の立場を最もオーストドックスに表明した基本資料である。ただ本書は大正十二年(一九二三年)から昭和十五年(一九四〇年)までのものであり、当時それ以外の時期のものを持たなかった私は『官報』や雑誌『朝鮮』などから、必要なものをさがし出してコピーした。今すでにそのコピーはほこりにまみれ、変色して使いものにならなくなってしまっている。

それがこの度一九一〇年八月二九日から一九四五年八月まで、即ち日本の朝鮮支配の全期間の総督・政務総監の諭告・訓示・演述等が一つに収録されるといふ。今後の研究に資すること大である。更に特筆したいのは日本では入手困難なものが収録されていることである。一例をあげれば、本『集成』第六巻に、高宮太平編で京城日報社から出版された『小磯統理の展望』が第一輯から第七輯まで収録されていることである。私も数年前、かなり苦心して手に入れたのであるが、それがこの度復刻され、多くの人が簡単に読めるようになることは、資料の少ないこの時期の研究にとって大変喜ばしいことである。

日本の朝鮮支配に関心を持たれる方、特に研究者は手近において、くり返し活用し、研究が大きく進展することを期待したい。



南次郎(みなみ じちろう)
七代総督 昭和11年8月就任→昭和17年5月



小磯国昭(こいそ くにあき)
八代総督 昭和17年5月就任→昭和19年7月



阿部信行(あべ のぶゆき)
九代総督 昭和19年7月就任→昭和20年9月

昭和15年10月→昭和18年1月
総督諭告・訓示『朝鮮総督府官報』『官報(日本)』

昭和15年4月→昭和20年8月
警察部長会議訓示『警務彙報』『京城日報』『朝鮮警察新聞』『法政新聞』

昭和3年5月→昭和19年9月
朝鮮總督南大將閣下訓示演述集

朝鮮總督南大將閣下訓示演述集

時局と朝鮮統治の目標

附 國家總動員法 法政解説

朝鮮教育圖書出版部發行

第6巻

小磯統理の展望(京城日報社)

- 第一輯 昭和17年5月→10月
- 第二輯 昭和17年10月→昭和18年3月
- 第三輯 昭和18年3月→4月
- 第四輯 昭和18年4月→7月
- 第五輯 昭和18年7月→9月
- 第六輯 昭和18年10月→12月
- 第七輯 昭和18年12月→昭和19年7月

小磯統理の展望 第一輯

別冊

解説・総目次・事項別分類目次

總督訓示集

韓國併合ニ付各理事廳理事官ニ對スル訓示

明治四十三年八月二十九日

域

本日公布ノ併合條約ニ依リ韓國ハ帝國ニ併合セラレ自今朝鮮ト改稱シテ帝國領土ノ一部トナリ域
内ノ人民ハ悉ク帝國ノ治下ニ
時ノ状態ハ未タ全ク帝國内地
ルモノノ外併合ノ結果朝鮮ニ
ノ效力ヲ存續シ將來時勢ノ進
國臣民ノ設立スル團體ニシテ
ヘキモノナリト雖今俄ニ之ヲ
代ルヘキ地方制度ノ完成ヲ待
國及外國間ノ諸條約ハ事情ノ
ルト同様ノ權利及特典ヲ享有
ル外國人ニ係ル訴訟事件ハ之
同一ナルヘシ關稅ニ至テハ之
トキハ管ニ外國貿易ニ劇變ヲ

道知事會議に於ける總督訓示

(昭和十六年四月二十三日 朝鮮總督 南 次 郎)

茲に新年度頭道知事會議を開催し重大時局下に於ける朝鮮施政の機務に關して本職の所信を述べ相共に報效の全
きを期することは本職の欣快とする所であります。

一 重大なる時局

去る一月三十一日臨時道知事會議を招集し帝國と世界の情勢特に帝國を中心とする國際關係に關し詳細に本職の所
見を開陳し各位の留意を喚起する處ありしが其後の推移を見れば豫想の如く時局は益々重大となれり。今や滿四箇年
に垂んとする支那抗日政權は連戰連敗、疲勞困憊の極に達せるに拘らず未だ其の迷夢より覺めずして絶望的の抗戰を
なしつつあり。他面歐洲戰は既に三年に互り益々擴大の一途を辿り未曾有の大戦となり其の底止する處を知らざる情
態にあり特に英米兩國の如きは我が大東亞共榮圈の建設に對し有ゆる牽制壓迫の暴擧を敢行し太平洋の波は漸く高か
らんとしつつあり。

此の間に處して我が帝國は泰、佛印國境の紛争調停を敢行して大東亞の指導者たる立場を世界に承認せしめ、續い
て日「ソ」間の中立條約を締結して多年の懸案を解決し劃期的外交の成效を得たるは全く我が強大なる國力の反映に
して大に人意を強からしむるものであります。然れ共我等國民は是等眼前の小成に安んずることなく更に進んで高度
國防國家體制の確立に向つて國の總力を擧げ必勝の地位を確保するの決意と準備とを有しなければなりません。

最近バルカンに於ける樞軸國の外交は更に展開して干戈の裡に獨逸の壓倒的勝利を報じて居り將に歐米の情勢は本

内容見本(原寸大)

● 水野直樹編・解説

朝鮮総督諭告・訓示集成

本資料集の特色

- ▼日本の朝鮮植民地支配の全時期を通して、歴代の朝鮮総督の諭告・訓示類が初めて、時系列で通覧できる。
- ▼朝鮮総督府が刊行した訓示集の他に、朝鮮総督府官報、京城日報、警務彙報、法政新聞及び各種刊行物より訓示類を採録し、より一層の資料の充実を図った。
- ▼本集成第6巻『小磯統理の展望』（日本では閲覧が困難な稀覯書）は、当該時期の訓示類の資料が極めて少ないだけに特に貴重である。
- ▼総督以外にも政務総監の訓示等も多数収録した。
- ▼別冊には解説、総目次、事項別分類目次を付した。
- ▼日本の朝鮮植民地支配の歴史（政治・経済・教育等）を研究する上で、欠くことのできない基礎史料。

体裁——全6巻・別冊1／編集複製版

A5判・上製クロス装・総約3000頁（第6巻は二頁4面付）

定価——本体120,000円＋税（分売不可）

ISBN4-89774-251-X C3031

平成13年10月中旬一括刊行

近藤正巳編・解説

台湾総督諭告訓達類聚

(仮題)

全3巻

日本の台湾統治期間（明治二八年～昭和二〇年）の五〇年間にわたり、詔書・勅語・令旨をはじめ、歴代の台湾総督、総務長官、警務局長等が出した諭告、訓示、告辞、声明類を集録した。なお本書は、『台湾総督府警察沿革誌』の別編として編纂された資料が中心となっている。

次回刊行予告

本書は歴史・日本史・東洋史・政治・法律・国際関係等の研究者、研究機関、及び大学図書館にお薦め下さい。

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

●下記の書店にお申込み下さい